

・2・土間と座敷の半分離型

開放・遮断が自在の土間と座敷を使いこなす

のどかな田園風景が残る徳島市の郊外にある田所さんのお宅には、いつも多くの仲間たちが集まります。それは土間があるから。玄関を通って「こんにちは」と声をかけると自然に土間の真ん中にあるテーブルに引き寄せられていくのです。

「訪ねてくる友人たちが気兼ねなく、くつろげる家」と考えていた田所さんに、建築家の富田さんは靴を脱がずに、そのまま家の中に入っている土間の発想を現代的に甦らせることで応えました。土間は家族や友人が集まる開放された空間。奥の座敷は引き戸を閉めれば独立した一つの部屋になり、普段はブライベートなリビングルームの役目を果たしています。また引き戸を開け放せば、土間につながる集いの部屋へと変化します。

家族や近所の人たちがちよつと寄っておしゃべりができる土間は、生活が地域に密着した日本の「スック」なのです。

設計 富田真 富田建築設計室



土間+茶の間——引き戸を開けてホームパーティに

土間のテーブルには開が裏が切っており、徳島の豊かな海の幸をそのまま焼いて食べるには最適。土間と茶の間がつながって庭やテラスを含めた1階全体が大きな集いの空間になる。だれもが気楽に立ち寄り、食べたり語ったりすることができるようなスペースを作りたいという田所さんの希望を、友人であった建築家の富田さんは土間の発想で実現した。田所さんが自ら目地を詰めた木煉瓦の土間は自分たちの生活に違和感なく仲間を招き入れる装置として見事に活躍している。

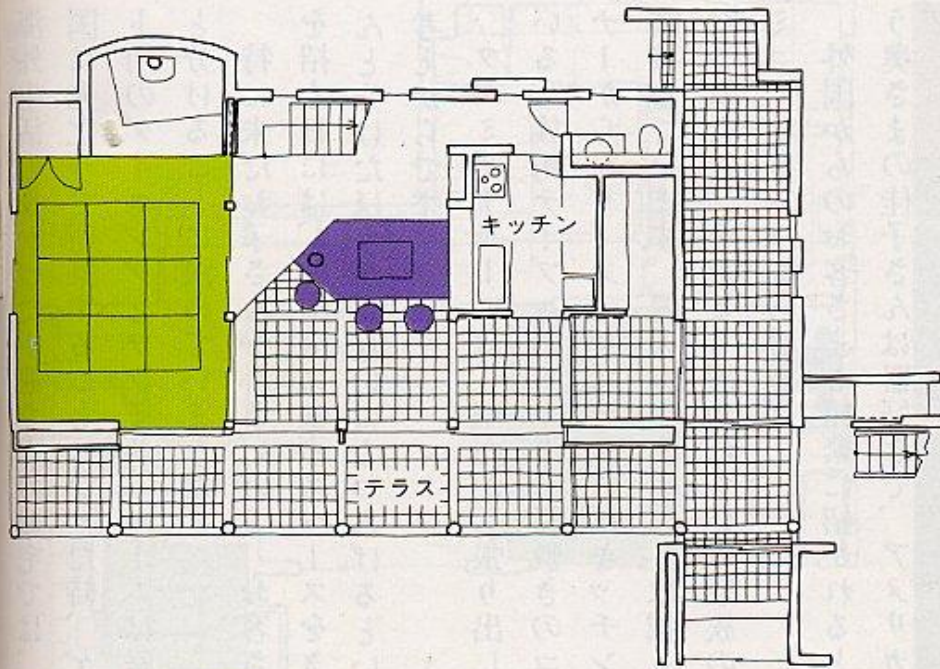
田所邸 (徳島県徳島市)

のどかな田園風景が残る徳島市の郊外にある田所さんのお宅には、いつも多くの仲間たちが集まります。それは土間があるから。玄関を通って「こんにちは」と声をかけると自然に土間の真ん中にあるテーブルに引き寄せられていくのです。

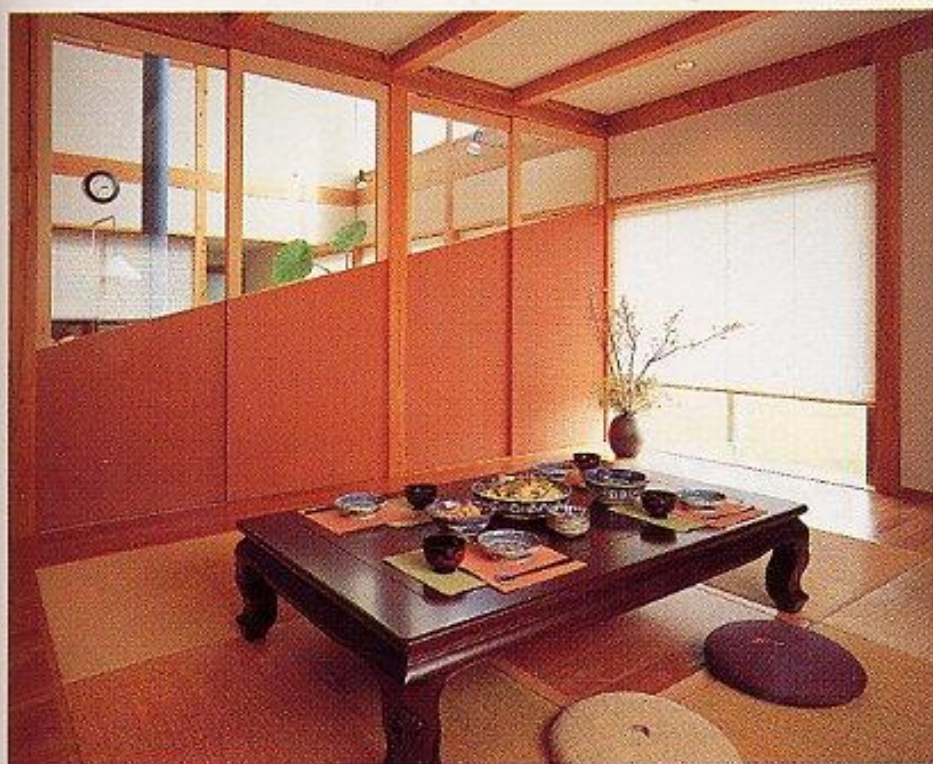
「訪ねてくる友人たちが気兼ねなく、くつろげる家を」と考えていた田所さんに、建築家の富田さんは靴を脱がずに、そのまま家の中に入っている土間の発想を現代的に甦らせることで応えました。土間は家族や友人が集まる開放された空間。奥の座敷は引き戸を閉めれば独立した一つの部屋になり、普段はプライベートなリビングルームの役目を果たしています。また引き戸を開け放てば、土間につながる集いの部屋へと変化します。

家族や近所の人たちがちよつと寄っておしやべりができる土間は、生活が地域に密着した日本の「ヌック」なのです。

設計 富田真二／富田建築設計室



●ヌック(土間) ●ダイニングルーム(座敷)



座敷——引き戸を開めて あらたまった席に

引き戸を開めた座敷でちらしずしの膳立て。家族同士、親戚同士でも、あらたまった日にはこちらの座敷をクロード・スペースにして「ハレ」の日を演出できる仕組みになっている。斜めに目隠しが入ったデザインの引き戸が視線を柔らかく遮るのでフォーマルといえども堅苦しい雰囲気にならない。普段は茶の間としてより親密なかかわりの人が集うスペースとして活用されている。

器協力／えんぜる

土間—— 家族が憩う大テーブル

キッチンと対になって土間に張り出している檜製の大テーブルは、家族が普段の食事をする場。家族が自然に集まって会話を交わしながら簡単な食事をしたり、ちょっとお茶を飲んだりできる「スック」になっている。テーブルを囲むと上は吹き抜け、正面は南向きのテラスと、つねに開放的でおおらかな気分になる。徳島名物のおそばのように歯切れのよい会話が田所邸の「スック」には欠かせない。

